

桜島土石流対策について取材を受けました。

発信元

大隅河川国道事務所  
桜島砂防出張所

平成27年4月26日(日)桜島の土石流対策について、現地(野尻川8号えん堤)及び土石流監視室(桜島砂防出張所)で取材を受けました。

【取材概要】

多くの人命が失われた御嶽山の噴火は全国に火山災害の恐ろしさを知らしめた。国の中央防災会議は富士山がすぐに噴火する可能性は低いとしているが、一方で万が一の被害規模は甚大と想定している。被害を最小限にとどめるには危機意識を持ち続け想定される被害をイメージすることが不可欠だ。News every.の藤井貴彦キャスターが日本で最も活動的な火山、桜島を訪ね防災の最前線を探る。

火山災害のひとつ、土石流が桜島では多発している。去年は41回発生。ひとたび発生すれば下流まで流れ出し住民の命を脅かす土石流。国が進める砂防事業は今も続いていて、その最前線取材。砂防えん堤の役割等について担当者に聞く。

○現地取材(野尻川8号えん堤)



取材内容

Q. 土石流の発生要因について

A. 桜島の川はすべて水無川で、雨が降ると斜面が急なため、また火山灰が堆積しているため、地面にしみこむ間もなく、一気に流れて土石流を発生させます。

Q. 砂防えん堤の役割について

A. 土石流をせき止めることと、土砂で満杯になっても勾配をゆるやかにして土石流の勢いを抑えます。

Q. 土石流センサーについて

A. 野尻川では7号えん堤にワイヤーセンサーを張り土石流でワイヤーが切断されたら自動的に連絡が入るようになっています。



【藤井キャスターから取材を受ける担当者】

○土石流監視室取材(桜島国際火山砂防センター「3F:桜島砂防出張所」)



取材内容

Q. 土石流監視体制について

A. 土石流センサー、監視カメラ、雨量計などの監視装置を土石流監視室で集中監視し関係機関へ情報を提供しています。

※3月19日に発生した土石流の監視カメラ映像を流して説明しました。

【放送予定日】

5月21日(木) 日本テレビ(全国放送)

news every「16:53~18:15のうち5分程度」

6月 7日(日) KYT鹿児島読売テレビ

16:55~17:25特別番組「活火山桜島防災最前線を探る」